【問い合わせ先】
島根県病害虫防除所［担当：澤村］
ＴＥＬ：０８５３－２２－６７７２
ＦＡＸ：０８５３－２４－３３４２

平成１８年度　病害虫発生予察情報　特殊報第２号

平成18年１２月１日
島　根　県

１　病害虫名　　：イチジクヒトリモドキ
２　発生作物　　：イチジク
３　発生確認場所：出雲市イチジク栽培圃場
４　発生確認の経緯

１）平成１８年９月２０日に出雲市の家庭菜園のイチジクにおいて新葉を食害している鱗翅目幼虫を捕獲した。飼育し羽化させた成虫を愛媛県立果樹試験場に同定を依頼した結果、イチジクヒトリモドキとの連絡があった。

２）本種はヒトリモドキガ科に属する南方系の蛾であり，沖縄県では土着とされている。国内では1980年代に鹿児島市，熊本市，福岡市，大分市など九州地域で採集された記録がある。近県では本県の他に瀬戸内を中心に７県（平成18年10月11日現在）で発生が報告されている。

５　形態及び生態

１）卵は淡黄色で直径約0.8mmのまんじゅう型をしている。若～中齢幼虫は、胴部背面が全体に白っぽく、頭部は黒色、体側面は橙色である。終齢幼虫は、体長約40mm。頭部はつやのある黒色、胴部背面は灰色がかった黒色で、腹面は橙黄色を呈する。刺毛基部は橙黄色で、刺毛基部からは白く長い刺毛が１本づつ生ずる（図１）。成虫は、前翅は褐色の地色に橙黄色、黒色、白色の斑紋、後翅は黄色の地色に黒色の斑紋を有する蛾である（図２）。

２）幼虫の寄主植物としては、クワ科イチジク属のイチジク、イヌビワ、オオイタビが報告されている。

卵は、若い葉の裏面に卵塊として産卵される。若齢～中齢幼虫(体長約20mmまで)は集合性が強く主に葉裏に群生し食害するが、発育が進むにつれて分散し葉表にも生息するようになる。若齢では葉裏から表皮を残して食害するため、葉脈間に白い膜が残る。中齢～終齢になると太い葉脈を残し葉のほとんどを食いつくす。また、葉が少なくなると果皮も食害する。幼虫は老熟すると樹を降り、土中の浅いところで土繭を作って蛹化する。本種は蛹で越冬し、年間４世代を経過すると推定されている。蛹から羽化した成虫は、昼間は葉裏に生息し、夜間活動する。

６　防除対策

１）耕種的な防除として、イチジクでは若齢幼虫が葉裏に群生する時期に寄生葉を取り除いて処分する。

２）薬剤による防除としてアディオン乳剤３、０００倍（収穫前日／２回）を発生時期に散布する。

イチジクヒトリモドキ幼虫（上：中齢、下：終齢）

イチジクヒトリモドキ成虫